

# 日本癌病態治療研究会の 開催にあたって

第18回 日本癌病態治療研究会当番世話人  
公立大学法人 福島県立医科大学附属病院長

竹之下 誠一



このたび、第18回日本癌病態治療研究会を、福島の「コラッセふくしま」で開催させていただくことになりました。臓器横断的にがん治療を実践しているわれわれにとっては誠に光栄であり、名誉会長の磯野可一先生、会長の生越喬二先生はじめ、会員の諸先生方に厚くお礼申し上げます。

本研究会は、「癌の病態や治療法に関する研究を行い、その病態に基づく、個人個人に適した治療法を確立すること」を目的に平成4年に設立されました。平成19年に策定された「がん対策基本法」では、「がんの予防、早期発見、がん医療の均てん化」が重要課題としてとりあげられています。一方、患者さんの希望するがん治療は、均てん化、グローバルスタンダード化の流れと同時にその中で、さらにエビデンスを重視し、患者個々の病態を反映した最適な個別化を求める傾向にあります。まさに本研究会の趣旨や目的の通りがん治療は年々改善されてきました。

がん治療の均てん化の中でさらに最適な治療の個別化を実施するためには、当然、癌病態の正確な把握と客観的な治療の選択が必須となります。まして低侵襲・最先端はキーワードです。したがって、第18回研究会の主題は「癌病態に基づいた低侵襲・最先端医療」といたしました。実際にはシンポジウムとして 1. 癌病態にそくした低侵襲医療 2. 最先端技術を用いた癌病態の評価と治療の企画です。その他にもワークショップ5項目、一般演題、症例報告もとりあげております。もちろん本研究会の特色である手術・放射線・抗癌剤・免疫から東洋医学・補完代替療法まで幅広く演題を募集させていただいております。

さて、福島県は日本でも有数の医療産業集積地であり、県の政策も医療立県を目指しております。すでに、福島県立医科大学を中核にした大学連合、福島県、および県内企業群が連携した複合体が構築されております。この強力な医工連携プラットフォームから多数のさまざまな低侵襲型医療機器が生み出され、しかも実用化までの道筋が見える形で整備することができました。この取り組みは国内外でも極めて高い評価を受け、医工連携のお手本とされる「福島モデル」として確立されてきました。福島モデルでは、医療機器の実用化、事業化にあたり、デバイスラグ解消のために、日米

欧同時承認を目指します。そのために、最初の機器の設計開発管理から、事業化を目指した治験までの臨床研究の効率化と期間短縮が重要となります。この意味においても、2007秋に福島県立医科大学に、臨床研究の橋渡し研究臨床拠点（TRセンター）が設立されたことは極めてタイムリーであったわけです。このTRセンター誕生は、独立行政法人新エネルギー・産業技術総合開発機構（NEDO）が公募したプログラム、「基礎研究から臨床研究への橋渡し促進技術開発」、に本学を含む大学・研究所・わが国を代表する民間企業からなる共同研究施設が提案したプロジェクト「遺伝子発現解析技術を活用した個別がん医療の実現と抗がん剤開発の加速」が採択された結果です。医学と工学が有機的に融合することは、日本の医療関連企業の競争力強化という究極の産官学連携の成果となります。そこで、医学の代表として、横浜市大の井上教授に、「マイクロドーズ」について教育講演を、本学TRセンターの渡辺教授に、「ゲノム学の臨床応用」について特別講演を、工学の代表として、日大の尾股教授を中心に組まれた「最先端医療機器」に関する特別企画などを通して、理解を深めていただければ幸いです。他の学会では中々お目にかかれぬ、今回の研究会の目玉です。本研究会が、医療立県から医療立国へと発展していく起爆剤となることを祈念しています。

福島弁で「コラッセ」とは「こちらにお出ください」という意味です。会員の皆様方、とくに若い先生方の積極的なご参加により、実りのある研究会になることを祈念してご挨拶とさせていただきます。

## 第18回 日本癌病態治療研究会

当番世話人：竹之下 誠一（福島県立医科大学附属病院長）

日 時：2009（平成21）年6月18日（木）、6月19日（金）

会 場：コラッセふくしま

〒960-8053 福島県福島市三河南町1番20号

TEL：024-525-4089 FAX：024-525-4036

<http://www.corasse.jp/>

学会事務局：〒960-1295 福島市光が丘1番地

福島県立医科大学医学部 器官制御外科学講座

担当：大木進司、中村 泉

TEL：024-547-1259 FAX：024-548-3249

E-mail：jsct18@fmu.ac.jp